

MONTHLY REPORT



THIS MONTH'S HIGHLIGHTS

Japanese investors are exploring opportunities in Cambodia, especially in manufacturing, electrical wiring, architecture, construction, and public infrastructure.



GOLDEN CAMBODIA CENTURY

GC Orussey Market 8月 建設進捗報告

8月も引き続き雨季の影響により、一部の外部工事や資材搬入に遅れが見られました。しかしながら、現場では工程の調整を行いながら作業を継続しており、品質・安全を確保しつつ計画の遅延最小化に努めております。現時点では全体スケジュールへの影響は限定的であり、引き続き早期完成に向けた対応を進めてまいります







CAMBODIA
MY 2ND HOME

Latest Information

2025年08月27日

2025年8月27日、内務省副次官兼常設事務局副局長オウ・ヴァンナ閣下は、カンボジア・ファミリーファンド協会会長ニュー・ソクピアップ閣下から、作業部会代表を通じて内務省に届けられた予算を正式に受領されました。

本予算は、首都および各州の警察署長が使用する電動パトロールバイク25台の購入に充てられる予定です。受領式は内務省事務所にて執り行われ、警察関係者も同席し、今後の円滑な導入と効果的な運用に向けた意義が改めて強調されました。



CAMBODIA

LATEST INFORMATION

2025年08月24日

観光大臣、各国大使にカンボジア観光の潜在力の宣伝を要請



カンボジア観光省は、韓国およびエジプトの駐カンボジア大使対し、カンボジアの観光の可能性と投資機会のプロモーションを強化するよう要請しました。フオット・ハック観光大臣は8月23日土曜日、両大使と会談し、観光セクターの強化戦略、国家観光計画に関する情報、観光統計について話し合いました。平和と安全の確保や観光客への安全保証を強調し、カンボジアの評判を損なうフェイクニュースへの対抗にも協力と呼びかけました。大臣はまた、観光プロモーションのために外交使節団を活用する上で、外務国際協力省の支援に感謝の意を表しました。

出典：[Tourism Minister urges ambassadors to promote Cambodia's tourism potential](#)

2025年08月22日

カンボジアとマレーシア、投資・貿易協力を一層強化



カンボジアとマレーシアは、投資・貿易分野での協力強化を協議しました。カンボジアのスン・チャントール副首相は、マレーシアのシャハルディン・オン大使と会談し、特にハラール食品加工分野における関係強化と協力拡大の可能性について協議しました。大使はカンボジア政府の平和維持努力を評価し、7月28日にマレーシアで合意された停戦を高く評価しました。副首相は、カンボジアとタイの国境問題に関するマレーシアの仲介役としての役割を評価し、先ごろ開催されたカンボジア・タイ国境委員会会議の成果を承認しました。

出典：[Cambodia and Malaysia further strengthen cooperation in investment and trade](#)

2025年08月20日

日本投資家代表団、カンボジアの投資・貿易機会を調査



日本の投資家代表団がカンボジアを訪れ、製造業、電線、建築、建設、公共インフラ分野を中心に投資機会を探りました。代表団は、複数の日本企業関係者が参加。カンボジア投資委員会のヌット・ウンヴォアンラ副事務局長は、投資環境や法的保護、平和と経済の安定、インフラ改善といった投資の利点を紹介しました。投資家側はカンボジアの多様な分野での発展に強い関心を示し、今後さらなる調査を進める意向を表明。また、直接投資に加え、日本からの追加投資誘致や技術移転、人材育成にも寄与する姿勢を示しました。

出典：[Japanese investor delegation looks into investment and trade opportunities in Cambodia](#)

2025年08月20日

2026年、シアヌークビル港に22隻のクルーズ船寄港 観光客2万5千人見込む



出典：[22 cruise ships to dock at Sihanoukville port next year](#)

2026年、シアヌークビル港には22隻の外国クルーズ船が寄港し、約2万5千人の国際観光客が訪れる見込みです。2024年には約1万2千人が海路で来訪し、2025年は1万5千人超が予測されています。2026年元日に入港するオセアニア・シレナ（約800人）を皮切りに、コスタ・セレーナ（3617人）、MSウエステルダム（2362人）、ノルウェー・サン（2323人）など大型客船が続きます。一方で5月～9月は入港予定がありません。近年はメコン川やトンレサップ湖などを巡るリバークルーズも人気を集め、現地の暮らしや自然景観を体験できるユニークな観光形態として注目されています。専門家は、クルーズ観光は年々成長し、カンボジア観光の重要な柱になり得るとしています。

2025年08月19日

労働省、奨学生に国際交流強化とカンボジアの評価向上を呼びかけ



出典：[Ministry of Labour urges scholarship recipients from five countries to strengthen ties and improve Cambodia's reputation](#)

カンボジア労働職業訓練省のソヴァン・ヴァンナラス常務次官は、2025～2026年度にフランス、カナダ、日本、中国、韓国で学ぶ奨学生に対し、国際関係を深めカンボジアの評価向上に貢献するよう呼びかけました。対象は学部から博士課程まで。8月18日の面会で、ヴァンナラス氏は労働市場政策やフン・マネット首相の指導力に触れ、学生にキャリア準備や国際社会での人脈形成を助言しました。また、奨学生に国内の雇用情報拡散や国家雇用庁の無料職業紹介サービス活用を促し、カンボジアの「若き大使」として国の名誉を守り、学んだ知識を持続的発展と繁栄に役立てるよう求めました。

2025年08月18日

カンボジアの保険料収入、6月に3,240万ドル到達

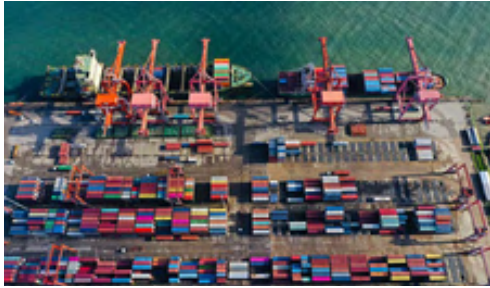


出典：[Insurance hits \\$32M in gross premium in June](#)

カンボジア保険規制当局（IRC）の報告によると、2025年6月の総保険料収入は前年同月比13.8%増の3,240万ドルとなりました。生命保険は1,970万ドルで17.6%増、損害保険は1,260万ドルで8.3%増を記録しました。保険金支払額は530万ドルで前年から22.3%減少しました。生命保険では養老保険が74%を占め、次いで定期保険が17%。損害保険では火災・財産保険が44%、自動車保険16%、医療保険14%でした。IRCのプー・チャンフィロウ局長は、国民への普及啓発活動の重要性を強調し、契約の長期性から生じる「信頼」の課題に触れ、専門家による説明や教育が必要だと述べました。

2025年08月12日

カンボジア、RCEP諸国との貿易額が2025年1～7月で230億ドル近くに



出典：Cambodia's trade with RCEP countries hits nearly \$23 bln in first 7 months of 2025

カンボジア商業省の報告によると、2025年1～7月のRCEP（地域的包括的経済連携）加盟国との貿易額は229億9,000万ドルに達し、前年同期比15.7%増となりました。輸出は57億7,000万ドルで11%増、輸入は172億2,000万ドルで17.3%増加。RCEP市場は同期間のカンボジア全貿易額368億8,000万ドルの62.3%を占め、主要取引国は中国、ベトナム、タイ、日本、シンガポールでした。2022年に発効したRCEPは世界最大の自由貿易協定で、ASEAN10カ国と中国、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランドを含みます。商業省のペン・ソビチュア報道官は、RCEPが輸出拡大と外国直接投資誘致の重要な推進力となっていると強調しました。

2025年08月12日

カンボジア輸出、2025年1～7月に18.4%増加



出典：Cambodia's export up 18.4 pct during January-July period

カンボジア商業省の報告によると、2025年1～7月の輸出額は177億2,000万ドルに達し、前年同期比18.4%増となりました。主な輸出品は衣類、靴、旅行用品、自転車、タイヤのほか、米、ゴム、キャッサバ、カシューナッツ、バナナ、マンゴー、ロンガンなど農産物。輸出先は米国、ベトナム、中国、日本、カナダが上位5カ国でした。一方、同期間の輸入額は191億6,000万ドルで15.5%増となりました。輸入品は石油・ガス、縫製原材料、車両、機械、電化製品、消費財などが中心です。商業省のペン・ソビチュア報道官は、RCEPやカンボジア・中国自由貿易協定が持続的な輸出成長を後押ししていると述べました。

2025年08月08日

インドネシア、カンボジアの災害リスク金融分野の発展を支援



出典：Indonesia to help Cambodia develop disaster risk finance sector

インドネシア政府はカンボジアの防災リスク金融分野の開発を支援すると発表しました。8月の会合では、災害リスクファイナンス、保険制度、適応的社会保障について協議。防災リスク金融は、災害による経済的損失を軽減し、事業継続や迅速な復旧を可能にする重要な仕組みとされています。インドネシア側は、この協力を「人道的関心と連帯の象徴」とし、両国関係の強化を期待しました。東南アジアは洪水や干ばつなど自然災害の脅威が共通課題であり、インドネシアは保険制度や基金の導入、開発計画へのリスクファイナンス統合などの革新的政策を紹介しました。ADBの報告では、カンボジアでの洪水保険や干ばつ保険の未整備が課題と指摘されています。

2025年08月06日

カンボジア・韓国食品加工センター開所 地場食品産業の高度化へ



出典：Cambodia-Korea Food Processing Center
Inaugurated to Advance Local Food Industry (VIDEO)

カンボジア産業科学技術革新省は、韓国の政府開発援助（ODA）により建設された「カンボジア・韓国食品加工TASKセンター」を国立科学技術革新研究所（NISTI）内に開所しました。同センターはパイロットプラント、食品品質・安全分析室、SME向け技術支援、プロモーションホールを備え、地場食品産業の国際規格適合や付加価値向上を後押しします。83台の最新加工機械で新製品開発を支援し、分析設備によりHACCPやGMP認証取得も可能に。韓国食品研究院や韓国技術振興院も協力し、中小企業へのコンサルや市場参入を支援します。ヘム・ヴァンディ産業相は、雇用創出や輸出力強化に向け、民間企業に積極活用を呼びかけました。

2025年08月05日

カンボジアの銀行・金融機関、2025年上半期の融資伸び率2.9%にとどまる



出典：Cambodia's banking, financial institutions
record 2.9 pct credit growth in H1

カンボジア中央銀行によると、2025年上半期の銀行・金融機関の融資残高は618億ドルで前年同期比2.9%増にとどまりました。建設・不動産分野の需要低迷や融資姿勢の慎重化が要因です。預金残高は615億ドルで14.5%増加。不良債権比率は8.3%に上昇しました。資産総額は971億ドルと7.3%増加し、金融システムは依然として安定を維持。国内には商業銀行59行やマイクロファイナンス機関89などが存在し、電子ウォレット口座は2,290万件に達しています。

2025年08月04日

トヨタ、カンボジア人材育成へ技術研修センター設立を計画



出典：Toyota plans technical training centre for
Cambodian workforce

トヨタ通商マニファクチャリング（カンボジア）社は、自動車産業の人材育成を目的に技術研修センターを設立する計画を明らかにしました。自社従業員のみならず、幅広いカンボジア人材の技能向上を支援するもので、政府の150万人職業技術訓練プログラムとも連携します。投資委員会のチェア・ヴティ事務局長は、産業人材強化に資する計画として歓迎し、必要な手続き支援を約束しました。同社は2022年にカンボジア評議会(CDC)から自動車組立工場設立の承認を受けており、フォーチュナーやハイラックスの組立を進めています。

2025年08月04日

カンボジア製品が牽引する経済成長



出典：[How Cambodia-made products are propelling economic growth](#)

カンボジア政府は、クメール文化の保護と生活水準の向上を目的に、国産品の促進に取り組んでいます。「一村一品」(OVOP)運動を通じ、農村経済の活性化と地域コミュニティの自主性強化を目指し、人々に原材料の生産や製品加工、地域の誇りとなる独自製品の開発を奨励しています。最近のタイとの国境紛争は、国産品への関心と支持を後押しした。地元製品は経済発展や雇用創出、輸入削減に加え、クメール文化とアイデンティティを体現しています。

2025年08月01日

スン・チャントール副首相、米国と優先品目の関税引き下げ交渉を継続へ



出典：[DPM Sun Chanthol: Cambodia will continue to negotiate with United States to lower tariffs to below 19% on some priority goods exported to United States](#)

カンボジアのスン・チャントール副首相兼開発評議会第一副議長は、衣類、靴、旅行鞆など米国で生産されていない優先品目の関税を19%未満に引き下げるべく、米国との追加交渉を進めると表明しました。米国がカンボジア製品への関税を19%に引き下げたことを受けた記者会見で、副首相は「今日の19%からさらに交渉を続け、雇用創出や競争力強化を図る」と強調。特に女性を中心に100万人規模の新規雇用を視野に入れ、輸送費や書類費用など生産コストの削減にも取り組み、投資環境の改善を進める方針を示しました。

2025年08月01日

シアヌークビルを近代物流拠点へ、日本の支援で変革加速



出典：[Sihanoukville to become modern logistics hub, courtesy Japan](#)

カンボジア政府は、日本の国際協力機構(JICA)の支援を受け、シアヌークビル港を地域物流拠点へと発展させるマスタープラン策定に着手します。事業は2026年1月から24カ月間実施予定で、港湾・物流インフラの強化を通じ、輸送コスト削減や輸出競争力向上を目指します。シアヌークビルは現在も国際貿易の要所ですが、ベトナムやタイの港湾整備に直面しており、日本の技術協力は競争力確保に不可欠です。さらにJICAは約193.8億円規模の地理空間インフラ整備事業も支援し、全国的な土地登録や都市計画の透明性向上に寄与。これらの取り組みは投資誘致や農産物・縫製品輸出拡大を後押しし、カンボジアの持続的成長に貢献すると期待されています。

2025年08月01日

カンボジアと日本、経済共創ワークショップを開始 ― 経済関係強化へ



出典：Cambodia, Japan launch biz co-creation workshop to bolster economic ties

カンボジア開発評議会（CDC）は在カンボジア日本大使館と共に「カンボジア・日本ビジネス共創チーム（BCT）」発足に関するハイレベル会合をプノンペンで開催しました。これは2025年5月のフン・マネット首相訪日時に発表された「カンボジア・日本経済共創パッケージ」の中核事業で、日本デスクを発展させ、投資支援や産業協力を一層強化する狙いがあります。両国はインフラ、物流、製造、技術、人材育成など幅広い分野での協力を推進。日本側はカンボジアを有望な投資先と位置づけ、長期的な経済パートナーシップの深化に意欲を示しました。

株式会社GCCジャパン
〒107-0062 東京都港区南青山2-23-8
外苑ビル8階
TEL:03-5927-1882
E-mail: central@gccjapan.co.jp

